

中途上がりイントネーションに対する聞き手の印象

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野呂, 幾久子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008333

中途上がりイントネーションに対する聞き手の印象

Listeners' Impression of Rising Terminal Declarative in Japanese

野 呂 幾久子

Ikuko NORO

（平成12年10月10日受理）

1. はじめに

1. 1 中途上がりイントネーションとは

筆者は拙稿（1998）で、「中途上がりイントネーション」を、「平叙文中の語の末尾に置かれた上昇調で、ある場合にはその後にポーズを伴い、質問の意図がないにも関わらず質問しているかのような印象を与えるもの」と定義した。例として発話(1)²をあげる。

(1) 男性は いいタイミング↑ ができるときまで あまり意識的に あのー 結婚って口
にされる方は……。〈最近のプロポーズ事情：女性雑誌編集長〉

（↑はピッチの上昇、スペースはポーズ、〈 〉内は話題および発話者を表す）

(1)では、「タイミング」という語の末尾に上昇イントネーションが加えられて「タイミング↑」と発話され、その後にポーズが置かれている。上昇イントネーションとポーズが使われているため、話し手が聞き手に質問しているかのような印象を与えるが、(1)は「最近のプロポーズ事情」に詳しい話し手が聞き手に説明している場面であり、質問しているわけではない。このような上昇調を、筆者は「中途上がりイントネーション」と呼ぶことにした。³それは、本来まとまりとして発話されるはずの句（「タイミングが」）の途中で、ピッチの上昇やポーズ挿入が生じる点が特徴的だと考えたためである。⁴

1. 2 本稿の目的

本稿の目的は次の3点である。まず、中途上がりイントネーションの現在の使用状況を調べる。このイントネーションの使用者は、「若い女性」とされることが多い。しかし松野（1996）、井上（1997）のように、男性あるいは高齢層の人も使用しているという報告もある。そこで本研究では、第一に、年齢層を若年層（10代～20代）、中年層（30代～40代）、高年層（50代以上）の三つに分け、このイントネーションの使用者が、どの年齢層、どの性別に多いのかを調べる。

次に、中途上がりイントネーションの現在の浸透状況を調べる。井上（1997）によると、こ

のイントネーションは、1992年頃ギョーカイで使われるようになったという。それではこの約10年の間に、中途上がりイントネーションはどの程度広がったのだろうか。これを調べるのが第二の目的である。

最後に、このイントネーションに対する聞き手の印象について調べる。これまでのマスコミの記述を見る限り、中途上がりイントネーションに対する評判は良くない。例えば評論家の天野祐吉氏は、「耳ざわりで仕方がない」「はっきり言ってメイワクである。」⁵と批判している。それでは実際に聞き手は、同様に否定的にこのイントネーションを捉えているのだろうか。そこで第三に、中途上がりイントネーションに対する聞き手の印象を調べ、その背景について分析することにする。

2. 調査概要

2.1 目的

「中途上がりイントネーション」の使用状況、浸透状況、および聞き手にどのような印象で受け取られているのかを調べる目的で、聴取アンケート調査を行った。同一のアンケート調査を、若年層（10代～20代）、中年層（30代～40代）、高年層（50代以上）に対して行い、その結果を比較した。

2.2 発話

インタビューやテレビ番組から採録した「中途上がりイントネーション」を含む発話の中から、内容および録音状態を考慮して、4つの発話を選んだ。⁶発話者の声質や文末のデスマス体などの影響をできるだけ小さくするため、発話の短い部分を取り出した。発話の文字化資料、発話者、発話場面は次の通りである。（ 部分が「中途上がりイントネーション」）なお調査票には、発話の文字化資料と発話場면을記した。

発話1：名古屋大学の院生の人の修士の実験（23歳女性）

これまで手伝ったことのある実験について説明している場面で

発話2：今度は教壇教壇ってのをとっばらう（45歳男性）

「教師と生徒の関係を良くするためには教室から教壇を無くすべきだ」という意見を述べている場面で

発話3：誕生日が来るまで18になるまで（18歳女性）

「子供が18歳になるまでお金を預かっていて欲しい」と頼んでいる場面で

発話4：私の学校っていう感じよそとは違うぞっていうね（39歳女性）

「学校の建物をきれいな色で塗れば、生徒も自分の学校に愛着が湧く」という意見を述べている場面で

2.3 アンケート項目

聞き手の印象を調べるために、予備調査として、4つの発話を5名の協力者に聞いてもらい、その印象を表す形容語を列挙してもらった。その結果をもとに、印象に関する項目を、「好感が持てる」「耳障りな」「優しい」「甘えた」「依存的な」「知的な」「自信のある」「責任感のある」「優柔不断な」「丁寧な」「控えめな」「ふてぶてしい」「押し付けがましい」「協調的な」の14項

目に決定した。

2.4 方法

調査では、各発話のテープを3回流した後、2.3の14項目について、「大変あてはまる」から「全くあてはまらない」までの4段階で評定してもらった。そのさい、できるだけ■部分の言い方に集中して回答するよう指示した。最後に、「■のような言い方をするか」(使用状況)、「■のような言い方を聞くか」(浸透状況)についても、4段階で評定してもらった。

2.5 実施

聴取アンケートは、若年層に対しては1999年12月に集団で行った。対象は静岡大学の1、2年生(18歳~22歳、平均19.0歳)で、145名(男性53名、女性92名)であった。中年層および高年層は対しては、2000年1月から2月にかけて個別に行った。人数は中年層45名(男性20名、女性25名)、高年層42名(男性22名、女性20名)であった。年齢は、中年層が30歳~47歳(平均38.8歳)、高年層が50歳~77歳(平均61.8歳)であった。

3. 結果

3.1 中途上がりイントネーションの使用状況

「あなたは■のような言い方をしますか」という質問に対する年齢層別・男女別の回答結果を、表1および図1に示す。

表1 使用状況(年齢層・男女別)

	若年層				中年層				高年層			
	男性		女性		男性		女性		男性		女性	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
よくする	1	2	1	1.2	1	5	1	4	0	0	0	0
ときどきする	13	26	36	42.3	2	10	13	52	5	22.7	0	0
あまりしない	15	30	25	29.4	8	40	7	28	3	13.6	10	52.6
全くしない	21	42	23	27.1	9	45	4	16	14	63.7	9	47.4
合計	50	100	85	100	20	100	25	100	22	100	19	100

(無回答3) (無回答7) (無回答1)

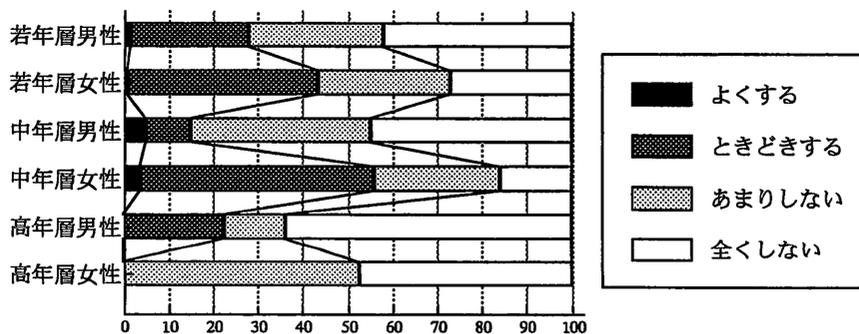


図1 使用状況(年齢層・男女別)

表1、図1を見ると、「よくする」または「ときどきする」と回答した人の割合は、中年層女性が56%と最も高く、次いで若年層女性43.5%であった。中年層女性の半数以上、若年層女性の4割以上が「する」と答えていることから、中途上がりイントネーションの使用者の中心は、10代から40代までの女性であると言える。ただし男性や高年層の使用者も見られ、若年層男性の3人に1人(28%)、高年層男性の5人に1人(22.7%)程度が「する」と答えている。以上のことから、中途上がりイントネーションは、若年層・中年層の女性が中心に使用しているが、男性や高年層の使用もあるという結果になった。これは松野(1996)・井上(1997)の指摘と一致する。

3.2 中途上がりイントネーションの浸透状況

「のような言い方を聞きますか」という質問に対する年齢層別の回答結果を、表2および図2に示す。

表2 浸透状況(年齢層別)

	若年層		中年層		高年層	
	人数	%	人数	%	人数	%
よく聞く	33	24.5	29	65.9	21	51.2
ときどき聞く	69	51.1	12	27.3	19	46.4
あまり聞かない	18	13.3	3	6.8	1	2.4
全く聞かない	15	11.1	0	0	0	0
合計	135	100	44	100	41	100

(無回答10) (無回答1) (無回答1)

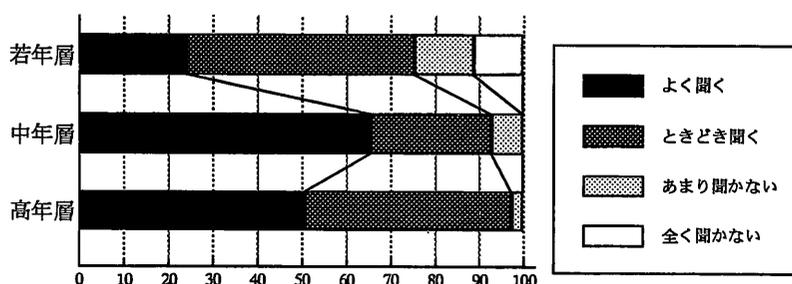


図2 浸透状況(年齢層別)

表2、図2を見ると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は、若年層75.6%、中年層93.2%、高年層97.6%であった。若年層で4分の3以上、中・高年層では9割以上の人が「聞く」と答えていることから、このイントネーションは現在、かなりの程度広がっていると見える。

3.3 中途上がりイントネーションに対する印象

3.3.1 因子分析

中途上がりイントネーションに対する印象を形成する要因を、因子分析によって探索する。

聴取アンケートでは、2. 3 であげた各項目をについて「大変あてはまる—少しあてはまる—あまりあてはまらない—全くあてはまらない」の4段階で判定してもらった。そして「大変あてはまる」3点、「少しあてはまる」2点、「あまりあてはまらない」1点、「全くあてはまらない」0点として得点化した。これを「中途上がりイントネーション印象得点」（以下「印象得点」と呼ぶことにする。

共通性の初期値を SMC とし、年齢層および発話別に因子を抽出した。その結果、それぞれ3因子解を適当と判断した。バリマクス回転後の各項目の因子負荷量を下に示す。

若年層

発話1（13変数：「責任感のある」を除く）

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.75</u>	-.05	-.09	.58
耳障りな	-.48	.16	.48	.49
優しい	<u>.69</u>	.11	-.17	.51
甘えた	.15	<u>.58</u>	-.01	.36
依存的な	.10	<u>.66</u>	.03	.45
知的な	.27	<u>-.42</u>	-.24	.31
自信のある	.13	<u>-.55</u>	.36	.45
責任感のある	**	**	**	**
優柔不断な	-.06	<u>.67</u>	-.21	.49
丁寧な	<u>.47</u>	-.22	-.23	.32
控えめな	.36	.21	<u>-.58</u>	.51
ふてぶてしい	-.16	-.03	<u>.72</u>	.54
押し付けがましい	-.07	-.07	<u>.53</u>	.29
協調的な	<u>.56</u>	.12	-.05	.33

発話2（14変数）

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.74</u>	.01	-.17	.57
耳障りな	<u>-.46</u>	.22	.17	.29
優しい	<u>.69</u>	.19	-.20	.55
甘えた	.07	<u>.58</u>	-.24	.39
依存的な	-.16	<u>.67</u>	-.16	.50
知的な	<u>.68</u>	-.21	.28	.58
自信のある	.25	-.38	<u>.68</u>	.67
責任感のある	<u>.60</u>	-.36	.39	.64
優柔不断な	-.23	<u>.64</u>	-.16	.48
丁寧な	<u>.71</u>	-.08	-.04	.51
控えめな	.28	<u>.56</u>	-.34	.50
ふてぶてしい	-.39	-.18	<u>.56</u>	.50
押し付けがましい	-.14	-.21	<u>.68</u>	.53
協調的な	.40	.31	.03	.26

発話3（12変数：「甘えた」「協調的な」を除く）

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.56</u>	-.31	.04	.40
耳障りな	-.32	<u>.60</u>	.14	.48
優しい	<u>.70</u>	-.10	.17	.54
甘えた	**	**	**	**
依存的な	.05	<u>.59</u>	-.09	.36
知的な	<u>.55</u>	-.14	.30	.41
自信のある	.13	-.01	<u>.59</u>	.36
責任感のある	.16	-.04	<u>.57</u>	.35
優柔不断な	.06	<u>.71</u>	-.13	.53
丁寧な	<u>.57</u>	-.00	.30	.42
控えめな	<u>.54</u>	.13	-.12	.32
ふてぶてしい	-.37	.43	.35	.44
押し付けがましい	-.19	.39	.33	.30
協調的な	**	**	**	**

発話4（13変数：「協調的な」を除く）

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.59</u>	-.34	-.39	.61
耳障りな	-.34	.24	<u>.67</u>	.62
優しい	<u>.61</u>	-.05	-.24	.43
甘えた	-.13	<u>.48</u>	.10	.26
依存的な	-.16	<u>.56</u>	.06	.34
知的な	<u>.62</u>	-.27	-.05	.46
自信のある	.26	-.40	<u>.51</u>	.49
責任感のある	<u>.72</u>	-.34	.06	.63
優柔不断な	-.06	<u>.74</u>	-.03	.56
丁寧な	<u>.62</u>	-.02	-.01	.38
控えめな	.40	.35	-.10	.30
ふてぶてしい	-.13	-.03	<u>.62</u>	.40
押し付けがましい	-.03	.07	<u>.69</u>	.48
協調的な	**	**	**	**

中年層

発話 1 (13変数: 「依存的な」を除く)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	.51	-.30	-.52	.61
耳障りな	-.39	.41	.13	.33
優しい	<u>.67</u>	.14	-.39	.62
甘えた	.25	<u>.61</u>	-.00	.43
依存的な	**	**	**	**
知的な	<u>.61</u>	-.27	-.00	.44
自信のある	.19	-.28	<u>.66</u>	.55
責任感のある	<u>.46</u>	-.22	.26	.33
優柔不断な	-.16	<u>.73</u>	.11	.58
丁寧な	<u>.78</u>	-.15	-.00	.64
控えめな	<u>.66</u>	.23	-.17	.52
ふてぶてしい	-.27	.19	<u>.58</u>	.44
押し付けがましい	-.11	.14	<u>.79</u>	.66
協調的な	<u>.77</u>	.00	-.00	.60

発話 2 (14変数)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.74</u>	-.18	-.25	.34
耳障りな	-.15	.24	<u>.72</u>	.60
優しい	<u>.74</u>	.21	-.25	.65
甘えた	.00	<u>.52</u>	.37	.41
依存的な	-.16	<u>.84</u>	.12	.74
知的な	<u>.76</u>	-.31	-.15	.70
自信のある	-.00	-.47	.48	.46
責任感のある	<u>.71</u>	-.35	-.00	.62
優柔不断な	-.00	<u>.79</u>	-.00	.63
丁寧な	<u>.77</u>	.00	-.25	.66
控えめな	.47	.51	-.19	.52
ふてぶてしい	-.34	-.00	<u>.78</u>	.73
押し付けがましい	-.25	-.00	<u>.90</u>	.87
協調的な	<u>.79</u>	.38	-.00	.78

発話 3 (13変数: 「控えめな」を除く)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.66</u>	-.00	.50	.69
耳障りな	<u>-.72</u>	.49	-.11	.76
優しい	<u>.89</u>	.25	.22	.90
甘えた	-.00	<u>.66</u>	.00	.44
依存的な	-.00	<u>.95</u>	-.18	.93
知的な	.34	.00	<u>.60</u>	.47
自信のある	-.18	-.15	<u>.68</u>	.52
責任感のある	.00	-.24	<u>.82</u>	.73
優柔不断な	-.17	<u>.59</u>	-.20	.42
丁寧な	.35	.00	<u>.53</u>	.41
控えめな	**	**	**	**
ふてぶてしい	<u>-.60</u>	.24	-.19	.45
押し付けがましい	<u>-.69</u>	.00	.00	.48
協調的な	.41	.00	.70	.66

発話 4 (13変数: 「甘えた」「控えめな」を除く)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.81</u>	.00	-.40	.83
耳障りな	-.22	.12	<u>.66</u>	.50
優しい	<u>.73</u>	.11	-.14	.56
甘えた	**	**	**	**
依存的な	-.00	<u>.90</u>	-.00	.82
知的な	<u>.71</u>	-.23	-.18	.58
自信のある	.40	<u>-.76</u>	.32	.83
責任感のある	<u>.77</u>	-.28	-.00	.67
優柔不断な	.00	<u>.89</u>	.00	.81
丁寧な	<u>.73</u>	-.00	-.22	.60
控えめな	**	**	**	**
ふてぶてしい	-.21	-.00	<u>.75</u>	.61
押し付けがましい	-.26	-.29	<u>.73</u>	.68
協調的な	<u>.78</u>	.00	-.38	.77

高年層

発話 1 (13変数: 「耳障りな」を除く)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.69</u>	.00	.29	.57
耳障りな	**	**	**	**
優しい	.32	.00	<u>.81</u>	.76
甘えた	.18	<u>.54</u>	.00	.33
依存的な	-.00	<u>.74</u>	.00	.56
知的な	<u>.75</u>	-.13	-.23	.64
自信のある	<u>.75</u>	-.19	-.00	.60
責任感のある	<u>.83</u>	.00	-.00	.70
優柔不断な	-.20	<u>.87</u>	-.00	.81

発話 2 (14変数)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.84</u>	-.00	.00	.71
耳障りな	<u>-.60</u>	.31	.16	.48
優しい	<u>.80</u>	-.11	-.22	.70
甘えた	-.00	<u>.42</u>	-.32	.28
依存的な	.00	<u>.85</u>	.33	.83
知的な	<u>.68</u>	-.24	.26	.59
自信のある	.50	-.34	<u>.60</u>	.72
責任感のある	<u>.66</u>	-.23	.34	.60
優柔不断な	-.11	<u>.58</u>	-.00	.35

丁寧な	.39	-.13	<u>.62</u>	.56	<u>.78</u>	-.00	.00	.62
控えめな	.16	.11	<u>.52</u>	.30	<u>.53</u>	.24	-.00	.35
ふてぶてしい	.39	.00	<u>-.53</u>	.43	.00	.00	<u>.58</u>	.34
押し付けがましい	.00	.00	<u>-.70</u>	.50	-.20	.00	<u>.72</u>	.57
協調的な	<u>.63</u>	.16	.30	.51	<u>.65</u>	.26	-.00	.49

発話3 (14変数)

発話4 (13変数: 「控えめな」を除く)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
好感が持てる	<u>.82</u>	-.22	.00	.71	<u>.76</u>	-.15	-.21	.64
耳障りな	-.36	<u>.52</u>	-.00	.40	-.43	<u>.65</u>	.49	.84
優しい	<u>.72</u>	-.17	-.14	.57	<u>.71</u>	-.13	-.29	.61
甘えた	.14	<u>.82</u>	.16	.72	.11	<u>.67</u>	-.23	.52
依存的な	-.00	<u>.80</u>	.00	.66	-.00	<u>.45</u>	.25	.27
知的な	<u>.76</u>	-.27	-.20	.69	<u>.80</u>	-.13	.12	.67
自信のある	.51	-.18	<u>.67</u>	.75	.43	-.48	.31	.51
責任感のある	.37	<u>-.53</u>	.46	.62	<u>.80</u>	-.00	.00	.65
優柔不断な	-.31	<u>.60</u>	.00	.46	-.21	<u>.42</u>	.16	.24
丁寧な	<u>.82</u>	.00	.00	.67	<u>.76</u>	-.00	-.35	.69
控えめな	<u>.61</u>	.00	-.00	.37	**	**	**	**
ふてぶてしい	-.00	.00	<u>.42</u>	.19	-.00	.12	<u>.65</u>	.43
押し付けがましい	-.23	.20	<u>.68</u>	.55	-.27	-.00	<u>.79</u>	.70
協調的な	<u>.60</u>	-.22	-.11	.42	<u>.40</u>	-.00	-.14	.19

3.3.2 因子分析の結果

各年齢層において、4発話のうち3発話以上に共通して現れた印象項目を、このイントネーションの印象を形成する因子として解釈した。その結果、若年層は、因子1が「好感が持てる」「優しい」「知的な」「丁寧な」、因子2は「甘えた」「依存的な」「優柔不断な」、因子3は「ふてぶてしい」「押し付けがましい」であった。次に中年層は、因子1が「好感が持てる」「優しい」「知的な」「責任感のある」「丁寧な」「協調的な」、因子2は「甘えた」「依存的な」「優柔不断な」、因子3は「ふてぶてしい」「押し付けがましい」であった。最後に高年層は、因子1が「好感が持てる」「優しい」「知的な」「責任感のある」「丁寧な」「協調的な」、因子2は「甘えた」「依存的な」「優柔不断な」、因子3は「ふてぶてしい」「押し付けがましい」とであった。つまり、このイントネーションに対する印象を形成する因子の構造は、年齢層を問わずほぼ共通しているという結果になった。

そこで3つの年齢層に共通する因子として、「好感が持てる」「優しい」「知的な」「丁寧な」からなる因子1を、「好感性」因子と命名した。次に「甘えた」「依存的な」「優柔不断な」からなる因子2を「依存性」因子、「ふてぶてしい」「押し付けがましい」からなる因子3を、「ふてぶてしさ」因子と命名した。

以上のように、中途上がりイントネーションに対する聞き手の印象は、「好感性」「依存性」「ふてぶてしさ」により規定されており、それはどの年齢層においても共通していると考えられる結果になった。

4. 考察

4. 1 中途上がりイントネーションの使用状況

中途上がりイントネーションの使用状況に関する調査の結果、このイントネーションの使用者の中心は10代から40代までの女性であるが、現在では男性や高年層の利用者も見られるという結果になった。

井上(1997)は、このイントネーションが、1992年頃からギョーカイで使われ、94年にはコギャルに流行したと述べている。はじめは若い女性に採用され、それが上の年代の女性へと広がり、そして男性、高年層へと利用者層が広がってきたと見られる。これまでも、「尻上がりイントネーション」「とびはねイントネーション」など、若い女性がはじめの採用者となる例は多く見られた。若い女性の中の、新しい変化に敏感ですぐに受け入れるタイプの人たちが、牽引力になっていると考えられる。しかしそれが限られた集団だけの流行に留まらなかったことには、何らかの言語的理由が推察される。この点については、次節で浸透状況と合わせて考察する。

4. 2 中途上がりイントネーションの浸透状況

中途上がりイントネーションの浸透状況を調べたところ、若年層で4分の3以上、中・高年層では9割以上の人々が「聞く」と答えており、このイントネーションが現在、かなりの程度広がっていると言える結果になった。1990年代はじめからの約10年の間に広がったことになるが、この点と前節の利用者層の拡大の背景には、次のような言語的理由が考えられる。

それは、拙稿(1998)で述べた「中途上がりイントネーションの二面性」、すなわち「丁寧さ」と「要求」である。まず「丁寧さ」であるが、中途上がりイントネーションでは平叙文中で上昇調が使われている。森山(1989)は、上昇調には聞き手の反応を伺う意味があり、やわらかく丁寧な待遇になると述べている。聞き手の反応によっては自分の情報を取り消す可能性があることをを匂わせることで、自分を押し出さず、相手の情報を優先させる姿勢を示すことができるからである。中途上がりイントネーションも、話し手の縄張りにある情報を伝えるさいに上昇調を用いることによって、「私(話し手)は自分を一方的に押し付けるつもりはない。あなた(聞き手)のことを尊重しているので、その反応を伺い、考慮しながら話を進めています。」という協調的な姿勢を示すことができる。つまり聞き手に対する「丁寧さ」を表現できるのである。

しかし一方、中途上がりイントネーションには、必要な言語形式を取らずに音調だけで意味を表現しながら、聞き手には言語的・非言語的の反応を要求する、「要求」という面もある。話し手は、このイントネーションが生まれる前は、不確かな情報の確認、聞き手の理解の確認、同意・共感要求などの意味を、「～で正しいでしょうか?」「わかりますか?」「～そう思いませんか?」などの言語形式によって表わしていた。しかし中途上がりイントネーションでは、それらの言語形式を省き、イントネーションだけで意味を伝達することができる。一方、上昇調とその後のポーズによって、聞き手には、言語行動(あいづちなど)、非言語行動(うなずき、視線の合致、表情など)などの反応を返すことを求めている。このように中途上がりイントネーションには、話し手は省略的な発話をしながら、聞き手にはその意味を押し量り、それに応じた反応をさせるという、「要求」という面がある。

以上のように、話し手にとって中途上がりイントネーションは、省略的な話し方をしながら

聞き手には反応を要求をし、かつ聞き手に対する丁寧さを示すこともできるという、利点がある。そしてこれが、中途上がりイントネーションが広がった言語的理由ではないかと考える。

4.3 聞き手の印象

それでは以上のような性質を持つ中途上がりイントネーションを、聞き手の側はどのように受けとめているのだろうか。3.3.2で述べたように、因子分析の結果、聞き手の印象はどの年齢層でも共通して、「好感性」という肯定的な因子と、「依存性」「ふてぶてしさ」という否定的な因子によって規定されていることがわかった。

これは、前節で述べた中途上がりイントネーションの二面性が、聞き手の印象形成に影響を与えていることを示唆している。まず、上昇調が用いられたことについて聞き手は、「話し手は自分の反応を伺い、尊重しながら、自分との協力関係のもとに会話を進めようとしている」と解釈することによって、「丁寧さ」「優しさ」を感じ、全体として好感を持って受け止めていると考えられる。

反面、話し手が、「～で正しいでしょうか?」「わかりますか?」「～だと思いませんか?」などの必要な言語形式を省略し、その意味を音調だけで表現している点、しかし一方、聞き手には言語的・非言語的の反応を要求しているという点が、「ふてぶてしい」「押しつけがましい」という否定的な印象につながったのではないだろうか。

最後に、上で述べた「聞き手を尊重し協力的に会話を進めようとする姿勢」が、逆に、「話し手が伝えるべき情報であるのに、自分(聞き手)の助けがなければ伝えられない」と解釈されると、「甘え」「優柔不断」「聞き手への依存」という印象につながると考えられる。

以上のように、今回の調査により、中途上がりイントネーションに対する聞き手の印象は、否定的な印象だけではなく、「好感が持てる」という肯定的な印象と、「ふてぶてしい」「依存的」という否定的な印象が入り混じった複雑なものであることがわかった。そしてその印象には、中途上がりイントネーションの持つ二面性が、影響を与えていると考えられる結果になった。

5 おわりに

以上、本稿では、中途上がりイントネーションを取り上げ、その使用状況、浸透状況、聞き手の印象について分析した。このイントネーションに対し、聞き手が肯定的印象も持っていることから、今後このイントネーションの使用者は、拡大していく可能性があると考えられる。

今後の課題としては、次の点があげられる。まず使用状況の実態調査である。今回の調査は内省により使用意識を尋ねたものであり、実際の使用実態については別途調べる必要がある。

次に、英語に見られる上昇調との関連である。井上(1997)は、アメリカでuptalk、オーストラリア・ニュージーランドでH.R.T.D. (High Rising Terminal Declarative) と呼ばれる最近の英語の上昇調と、中途上がりイントネーションとの関連性を示唆している。それらの音声的特徴、使用者層、機能などを分析し、中途上がりイントネーションと比較していくことが、今後の課題である。

【注】

- 1 野呂 (1998)、p.52
- 2 テレビ番組「TV タックル」1996.10.14 静岡朝日テレビ 女性雑誌編集長
- 3 このイントネーションは、ほかに「半クエスチョン」(佐竹1995・1997)、「疑問口調」(松野1996)、「半疑問」(井上1997)、「疑似疑問」(斉藤1999) など、さまざまな名称で呼ばれている。
- 4 その後、実際の発話例により中途上がりイントネーションの出現位置を調べたところ、全249例中、句末149例 (59.8%)、句中51例 (20.5%)、文末49例 (19.7%) であった。出現位置として最も多いのは句末であるが、ピッチの上昇とポーズ挿入が句の途中で生じる点がかつてないこのイントネーションの特徴であると考え、「中途上がりイントネーション」の名称を用いることにした。
- 5 天野 (2000)「CM 天気図 語尾の砂漠」
- 6 発話1：インタビュー 1996.11.13 大学院生
発話2：テレビ番組「教育トゥデイ『校舎が変われば教育は変わる?』」1996.10.26 NHK
教育 大学教員
発話3：テレビ番組「目撃! ドキュン・今夜の決断」1996.9.11 静岡朝日テレビ 主婦
発話4：テレビ番組「教育トゥデイ『校舎が変われば教育は変わる?』」1996.10.26 NHK
教育 建築家

【参考文献】

- 天野 祐吉 (2000)「CM 天気図 語尾の砂漠」朝日新聞 2000.1.16朝刊
- 井上 史雄 (1997)『日本語ウォッチング』岩波新書
- (1997)「イントネーションの社会性」『日本語音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』三省堂, pp.143-168
- 斉藤 美紀 (1999)「『ねえ、昨日お台場あ?行って来たんだけど』一気になる口調『疑似疑問』に関する一考察」『社会言語科学会 第四回研究大会予稿集』pp.34-39
- 佐竹 秀雄 (1995)「若者ことばとレトリック」『日本語学』vol.14, pp.53-60
- (1997)「若者ことばと文法」『日本語学』vol.16, pp.55-64
- 野呂幾久子 (1998)「中途上がりイントネーションとの談話における機能について」
Ars Linguistica (Linguistic studies of Shizuoka) vol.5, pp.50-63
- 松野 和彦 (1996)「『疑問口調』と“Rising Terminal”—日本語と英語の上昇調について」『言語・情報・テキスト』vol.3 1995-1996, 東京大学大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻 紀要, pp.145-155
- 森山 卓郎 (1989)「文の意味とイントネーション」『講座 日本語と日本語教育 第一巻 日本語学要説』明治書院, pp.172-196